

患者コーディネートの運用等に関する変更について(ダイジェスト版)

項目		概要	現行	変更後(2019/4/15~)
ルールや運用に関する事項	1	医師の役割分担とFAX書類等の送付先について	役割が重複する部分があり、書類の送付先についても登録医師/移植医師が混在していた	(1)役割分担: ◆登録医師⇒患者確認検査の採血を担当 ◆移植医師⇒患者確認検査以外の全行程を担当 (2)書類の送付先: ◆登録医師へ:患者登録受理通知、患者確認検査予約票、月次ドナー検索状況(※) ◆移植医師へ:ドナー検索以降の書類全て ◆両医師へ:患者/ドナーの確認検査結果報告書、ステータスレポート(金曜/週)
	2	臍帯血等移植後の骨髄バンクドナーの確保について	臍帯血等移植を実施した場合は、患者登録は「停止」か「取消」	希望があれば、生着までのバンクドナー確保について個別に相談を受け付ける。
	3	DLI申請について: 「混合キメラ状態」の申請条件変更について	ドナー由来の造血が確認された後、 <u>キメリズム検査でドナー成分が持続的に減少していること</u> が必須条件	ドナー由来の造血が確認された後、 <u>キメリズム検査でドナー成分が「原則として」持続的に減少していること</u> に変更
書類に関する事項	1	各種書類への医師の署名(記名)について	コーディネートに関する書類には、登録医師/移植医師の「自署」が必須	同じ診療科(チーム)の医師の記名で可。HCTCの代筆も可能。 但し、患者登録時、及びDLI申請時の <u>同意書「説明者記入欄」は自署</u>
	2	「ドナー選定通知書」の変更について		「施設状況等の確認チェック欄(※必須)」を追加
	3	ドナーから放射線被ばくの申告があった場合の医師への連絡について(100mシーベルト未満)	被ばくに関するドナーからの申告は、医師に連絡(FAX)し、「進行可」の場合のみコーディネートを進めていた。	被ばくに関するドナーからの申告は、 <u>情報提供のみ</u> とし、回答は不要とする。
	4	連絡事項の中止について	HBs抗体「陽性」かつHBc抗体が「陰性」の情報(1位選定時) 患者本人確認結果	1位ドナー選定時、ドナーのHBs抗体が(+)かつHBc抗体が1.0未満の場合、あらためて連絡していた。 SBT法、NGS法検査済みで4座HLAデータで登録した患者は、本人確認検査(A,Bタイピング)を実施し、相違の有無にかかわらずその結果を連絡(FAX)していた。
骨髄液等の運搬に関する事項	1	航空機に搭乗時の運搬BOX磁気回避の見直しについて	航空機で骨髄液等を運搬する際には、搭乗前のセキュリティチェック時に、「X線および金属探知機通過を回避」してきた。	磁気回避については「不要」とする。これに伴い、運搬証明書の記載内容も一部変更する。
	2	運搬証明書発行の要否問い合わせ連絡の中止について	「運搬に航空機使用が予想されるが、運搬者証明書発行依頼が移植調整部に届いていない移植施設」に対し、証明書の要否について確認(FAX)していた。	航空機使用時の運搬者証明書必携がほぼ定着したと考えられるため、今後は要否問い合わせFAXは送らない。

(※)「登録患者の進行中ドナーが0名」である場合、毎月第1金曜日に連絡している書面。システム改修中のため当面は登録医師に送付

お問い合わせ先: 公益財団法人 日本骨髄バンク 移植調整部
TEL:03(5280)4771/FAX:03(5280)3856